



赴任のごあいさつ

皆さま初めまして、9月1日より赴任いたします
内科の **一丸 之寿**（いちまる ゆきかず）と申します。

現在総合内科専門医と呼吸器専門医を持っており、
内科全範囲を診療致しますが、特に呼吸器内科分野
を得意としています。

略歴ですが、私は大阪阿倍野の出身で平成10年に国立弘前大学医学部を卒業しました。同年大阪市立大学医学部の第一内科に入局。大学で研修医として循環器・CCUや膠原病・腎臓内科などを経た後、真星病院や高石加茂病院で研修を重ねた後に、呼吸器内科に進みました。

その後は呼吸器内科医として大阪市立総合医療センターや若草第一病院などで肺癌や一般呼吸器内科を専門としながら、救急医療、一般内科にも携わりました。

平成15年に大阪市立大学に戻ってからは、米国やヨーロッパ等で鼻炎合併喘息などの病因究明や治療法等の研究発表を重ね、海外の研究者と交流する様になりました。

その後平成19年に、ヒトの肺の細胞や気管支平滑筋細胞の研究で世界的権威であった、オーストラリアNSW州にあるシドニー大学のJ・ブラック教授の元に留学。最後の弟子の一人としてウイルスや特殊な蛋白などを用いて、喘息やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の研究をしました。

平成21年日本に帰国。その後は大阪市立大学呼吸器内科学教室の講師として、診療と後進の医師の育成に努めました。

後に西成特区構想等と関連して西成区の大阪医療センターへ出向。結核の拡大阻止と治療改善に取り組みました。

平成26年4月より、同じく大阪市立大学の整形の准教授が開業する際に誘われて大学講師を退職、同院に内科部長として赴任しました。

肺炎や喘息、慢性呼吸不全などの呼吸器疾患を専門とはしながら脳梗塞や糖尿病、高血圧症などを含めた一般内科を中心に加療を続け、半年後に副院長に就任しました。

病院経営も学びながら病院の感染管理や安全管理、地域の医院や病院とネットワークを作りながら「患者様の目線に立ち、患者様に寄り添える、身近

なものから高度なものまでを提供する内科医療」を目指して職員や患者様と一緒に日々学び続けていました。

そんな時に縁があって、東朋病院に赴任する事になりました。東朋病院では現在既に、院長先生を筆頭に多くの素晴らしい先生方が、献身的に病院や在宅の患者様と向き合い医療を行われていると思います。その御姿に共感すると共に強く感銘を受けております。また、看護師や看護助手の方々、コメディカルや事務職員の方々も皆活気にあふれ、誠意のある病院づくりをされているようにお見受けします。そんな中で今回東朋病院に赴任するにあたり、私は諸先輩の先生方の方針に学びながら、地域の先生方やコメディカルの方々と手を携えて、患者さん目線で誠心誠意病気や苦痛に向き合い、患者様が楽になるお手伝いをしたいと思います。

私が目指すのは、地域で最も高度な病院よりも最も信頼される病院です。

時には厳しい事も言います。残念ながら当院で全ての医療行為ができるわけではありません。その際は適切な専門の先生へのご紹介もいたします。

まずは、一緒に考える事から始めましょう。何かあればいつでもお気軽に受診してご相談ください。そして皆様と共に病気と闘い、学び、癒し、喜びを感じたいと考えています。文末ですが、私は微力ながら全力で努力し、少しでも患者様や職員の皆様の笑顔につながるお手伝いができればと切に願っております。